Sponsor a Child

クリスチャンパートナーズ

通信第 71 号

・発行日／2007 年 2 月 8 日
・事務局／〒422-8053
静岡市駿河区西中原 2－7－63－1001
草野計雄方
・ 郵便振替口座／00150－0－134994
・発行所／クリスチャンパートナーズ
・Tel／Fax 054-283-9317
・e-mail／cnec-kk@mail.wbs.ne.jp
・http://www2.wbs.ne.jp/~c-p/

クリスチャン パートナーズ設立の端緒となり、以来、助言者として尽くしてくださった

アレン・フィンリー師召天　{2006 年 10 月 30 日　享年 76 歳}

理事長　木ノ内一雄

フインリー師の召天の報に接し、悲しみを禁じえませんが、師の生前の祈りがわたしたちの活動の原点となっていることに深い感慨を覚えます。

1984 年 6 月に来日された時、知人らが集まり歓迎会が催され、それを機に日本にクリスチャン パートナーズが設立されることになりました。それはフィンリー師の長い間の願いであったと伺っています。わたしはフィンリー師とは初対面でしたが、親しみ深く、気品に溢れた人格に好感を持ちました。

理事の一人に加わるようになりましたが、当初はどのような活動から始めたらよいのか分かりませんでした。そのような時、アメリカ出張の折にサンノゼにある米国パートナーズの本部を訪ねました。

フィンリー師は喜んで迎えて下さり「日本人は教育に熱心だからまず子供たちの学費援助から始めたらどうか」と勧めて下さいました。ルース夫人は Sponsor-A-Child プロジェクトの責任者でしたので、西カリマンタンに住む子供達の写真を預かり帰国しました。理事会で賛同を得、ＳＡＣと呼ぶ精神的な里子への学費援助が日本の活動の中心となりました。

フィンリー夫妻はその後何度か来日されましたが、わたしに「海外宣教に目を向けることは教会の伝道の活性化につながる」と言われたことがありました。わたしが理事長を引き受けたのもそのお言葉があったからです。

フィンリー師が天に召された今、わたしたちはその遺志を少しでも引き継いでいきたいと思います。

フィンリー師追悼会　サラトガ合同教会で　2006年12月2日

フィンリー師の追悼会が、12月2日にサラトガ合同教会で開催されました。カリフォルニア州は同師が長年生活と仕事の拠点としていた土地で、多くの友人･知人がおいでになり、パートナーズ インターナショナルの本部が以前サンノゼにあったからです。クリスチャン パートナーズの元理事長草野計雄氏も出席され、追悼の言葉を述べられました。

草野氏は1953年にフルブライト奨学金留学生として渡米し、フィラデルフィアで留学生の支援活動をしていたフィンリー師夫妻と出会い、50年余にわたる親しい交わりが始まりました。フィンリー師を通してキリストを知った草野氏は、帰国後洗礼を受け、以来キリスト者としての人生を歩むことになり、家族ぐるみのお付き合いが今日まで続いています。

フィンリー師は1960年にＣＮＥＣ(Christian Nationals Evangelism Commission)に招聘され、最初は国際部長として後にはプレジデントとして、1987年までこの団体の育成と指導にあたってこられました。「現地人による現地人のための宣教支援」というＣＮＥＣの理念は、長年留学生支援の仕事をしてこられ、アジア各地に多くの友人をもつフィンリー氏の祈りであり願いでもあったのです。ＣＮＥＣは後にPartners Internationalと名称を変更しました。

フィンリー師夫妻はアジア訪問の途上しばしば日本に立ち寄り、日本社会で活躍しているかつての留学生との再会を楽しまれました。それがきっかけとなって、フィンリー師への恩返しの意味も込め、草野氏を中心にして1984年、日本にクリスチャン パートナーズが設立されました。以来フィンリー師夫妻は助言者として私たちを見守ってくださり、パートナーズ インターナショナルの一員として国際的に認められるまでに育ててくださったのです。

フィンリー師が草野氏に「あなたを通して日本人に好意を持つようになった」と言われた時、草野氏は「あなたを通してキリストの愛を知るようになりました」と応えられたとのことです。

左の写真は1989年1月14日、来日中のフィンリー師夫妻が理事会に出席され、ルース夫人が撮ってくださったものです。

後列左から成田理事、松本理事(現顧問)、草野理事長（現理事)、フィンリー師、上野理事、木ノ内理事(現理事長)。前列左から宮澤・鳥海理事。

フィンリー師の宣教思想は、論文[The Family Tie]に開陳されています。木ノ内一雄理事長が訳され、1989年7月に、「**家族の絆** ～世界宣教のため共に働くクリスチャン～」として、クリスチャン パートナーズが出版しました。

（文責 鳥海百合子）

フィンリー師のこと

理事　宮澤玲子

アレン・フィンリー師はジョンス・ホプキンス大学卒業後、兄ロバート・フィンリーがプレジデントであったFOCUS（Fellowship for Overseas College & University Students）という団体でそのキャリアの第一歩を踏み出しました。この団体は戦後まもなく、留学生たちに「キリストの愛をもって仕えること」を目的に設立され、全米にクリスチャンホームのネットワークをもち、多くの留学生や研究者の支援をしてきました。

私が1956年9月、カリフォルニア大学に留学した夫に同行してバークレーに着いたとき、暖かく迎えてくださり援けてくださったのがキャンパスの近くに事務所があったFOCUSのフィンリー夫妻でした。誰に対しても親切で謙虚なお人柄、相手の背景や文化に関心を持ち理解しようと努めるフィンリー師の態度は留学生たちの尊敬を集めていました。隔週の夜、FOCUS のせまい事務所で祈祷会が開かれ、フィンリー師が短く奨めをし、留学生たちは母国語で祈りました。

留学生たちが旅行をするときには、行く先々で〔FOCUS フレンド〕のクリスチャンホームに泊まれるよう緻密な計画がたてられました。「旅人をねんごろにもてなせ」という聖書の教えを地で行くものですが、食べ物も習慣も違う異国の、見知らぬ留学生を自宅に泊めようというアメリカのクリスチャンたちの底力に感銘をうけたものです。

1959年私たちが日本に帰国しまもなく、フィンリー師はFOCUSでの働きを終えられ、CNEC（現パートナーズインターナショナル）に新しい召命を感じてその招聘を受けられました。「真実の愛の援助であるなら、人は勇気付けられ、よい結果が生まれる。援助をうけても依頼心は起こらず、主体性を失うこともない」。これはフィンリー夫妻が長年にわたる留学生との交わりの中から得られた確信です。

2006年12月2日サラトガ合同教会で行なわれた記念会には草野元理事長がはるばる日本から出席され、感謝と追悼のことばを述べられました。「草野さんが壇上に座っていらしたので日本人として嬉しかったです。とても立派なご挨拶でした･･･。」サラトガ合同教会の会員、田代福美子さん(フィンリー夫妻のために長年「通信」を英訳してくださった方)が当日の模様を知らせてくださいました。私たちは悲しみをのりこえて、フィンリー師の遺志に沿う働きに仕えてゆきたいと願っています。

ロバン村便り　2006年10月

牧師イルワント（Irwanto）

親愛なる支援者の皆様

イエス･キリストの愛のうちにあって、ご挨拶いたします。

ロバン村の SAC 里子たちと教会への、皆様の変らぬ祈りと支援を心より感謝しています。私たちも皆様が健康で、主の平和のうちにおられますようにお祈りしております。

ロバン村での宣教と子供たちの様子をお知らせします。今年は4名の受洗者が与えられました。

この新しい信者たちの信仰が強められ、教会の集会に継続して出席するようにお祈りください。

教会学校の子どもたち

教会学校と青少年のグループはよくやっています。中学校を卒業したものたちは、大半が働きに出ます。彼らがどこにいても、神への信頼を失わないように祈ってください。

高齢の教会員が最近天に召されました。彼の家族がキリスト教式の葬儀を営んでくれたことを、私たちは主に感謝しました。中国系の人は普通伝統的な中国式の葬儀をするのですが、この家族は反対を押し切って亡くなった人の信仰を尊重しました。

大人たちの礼拝

毎木曜日の夜 7 時から聖書の勉強会があります。青少年のグループは毎金曜日夜 7 時に集まります。7 月まで奉仕されていたオベルナリウス牧師はスカダウのフィリピ教会に移られましたので、私が今ロバン教会で働いています。私はポンティアナック市のコタバル教会で、これまで 4 年間副牧師として奉仕してきました。私も、家内のデヴィ・デボラ・スコもダヤク族です。私はギターとオルガンが弾けます。どうぞ、ロバン村での私たちの働きのためにお祈りください。

（オベルナリウス牧師からのロバン村報告は「通信」第 65 号に載っています。フィリピ教会は、内陸部のスカダウにある養護施設フィリピセンターに隣接しています。フィリピセンターについては「通信」第 69 号に紹介されています。あわせてご覧ください。）

西カリマンタンの教会では～

ファム・ヘン・ヤン牧師からの報告によると西カリマンタンの教会は 2007 年 6 月から、自主･独立への一歩を踏み出す決心をしたとのことです。今まで 30 年間、東南アジアＰＩからの支援を受けて宣教活動をしてきましたが、これからの 10 年間で経済的にも指導力においても自力でやっていける教会に成長しようという計画です。しかし、インドネシアの経済状態とインフレーションは、その希望の前に立ちはだかる困難です。また、設立後 30 年を過ぎている教会が多くあっても、信者たちは受けることは知っていても与えることを知りません。

この目的を達成するには、まず、主に奉仕する協働者たちを目覚めさせるために、修養･研修･視察訪問などの機会を提供しなければなりません。また、信者たちの生活基盤を確立するために、小規模の農･商業を促進する資金の調達･貸付(micro -enterprises)なども考えなければならないのです。大きな教会が小さく困難な中にある教会を支援する計画も入っています。(シンガポール事務所のジェームズ・ライ師「東南アジアの未来と挑戦」から)

【理事会報告】第 143 回理事会は 2006 年 11 月 20 日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2006 年 9･10 月度会計報告承認。「通信」第 70 号は 11 月 15 日発行済。第 71 号は 2007 年 1 月末か 2 月初旬発行予定。SAC 里子 5 名に異動があったが、現在数は 62 名、里親 61 名。木ノ内和美氏からマルタ会議の報告。ホームページ改良の件は継続審議。ガーナの教育プロジェクト援助の第一段階として、米国ＰＩの現地職員に視察を依頼。

第 144 回理事会は 2007 年 1 月 29 日(月)一ツ橋学士会館で開催。前回議事録承認。2006 年 11･12 月度会計報告承認「通信」第 71 号原案を協議、2 月 8 日発行。SAC 里子に異動はなく、地図付きカードは各里親に送付済み。クリスマスカードは第 71 号に同封。シンガポール事務所との会計処理法改善案承認。ホームページ改良について協議、改善努力を継続。<サンタの会>への感謝表明の用意。

第 145 回理事会は 2007 年 3 月 19 日(月)一ツ橋学士会館で開催予定。

<編集後記>里子たちからのクリスマスカードは、シンガポール事務所の手違いで到着が遅れましたので、「通信」と一緒にお送りします。西カリマンタンの新職員たちの指導努力をごらんください。高橋めぐみ宣教師は休暇で帰国中、苦労された長期ヴィザの取得ができたとのことです。しばらく前から病床にあったフィンリー師の回復を祈っていましたが、悲しいお別れになりました。世界中の気候がおかしいようですね。暖冬の日々、くれぐれもお大事に。　　鳥海百合子